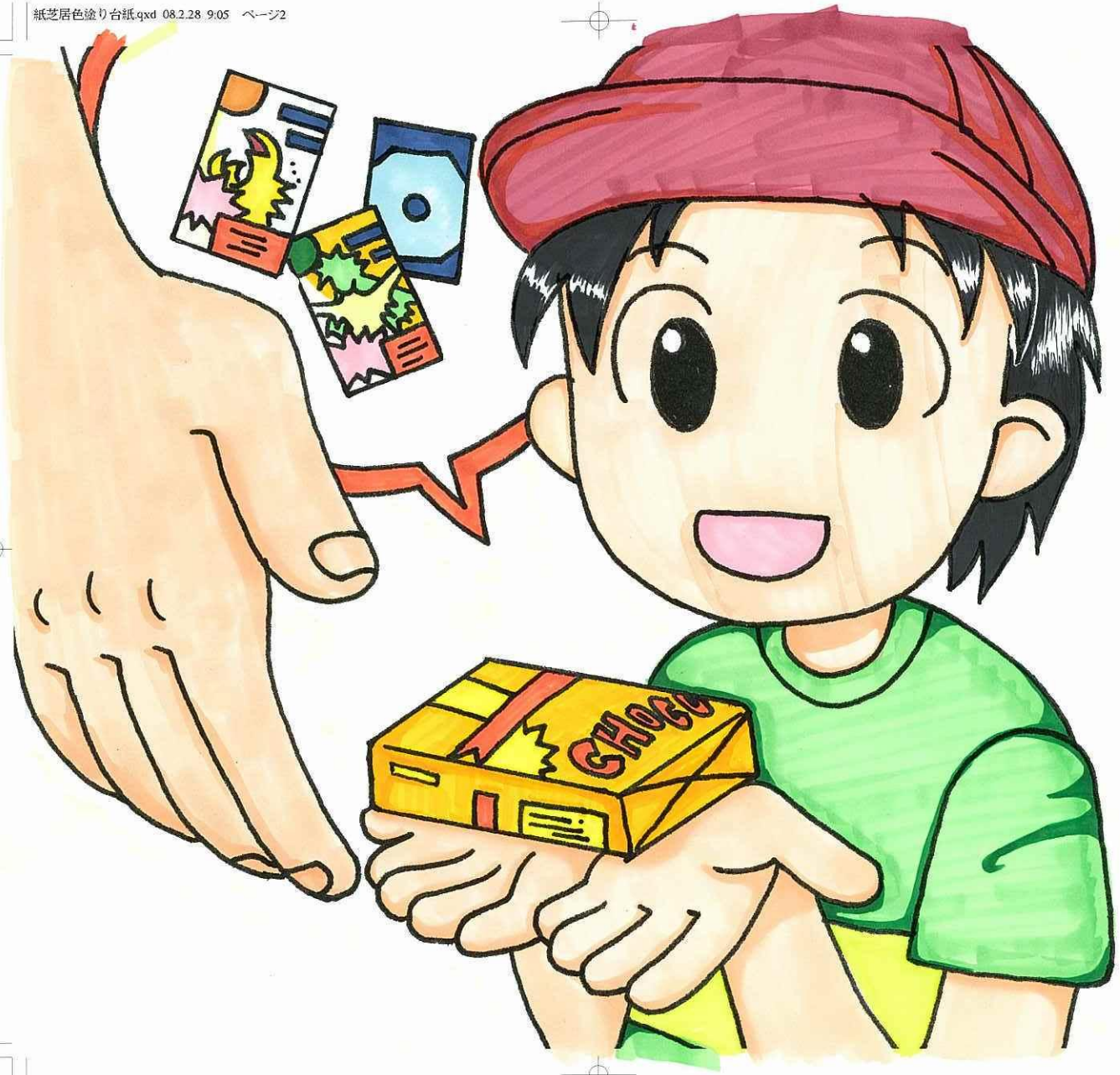
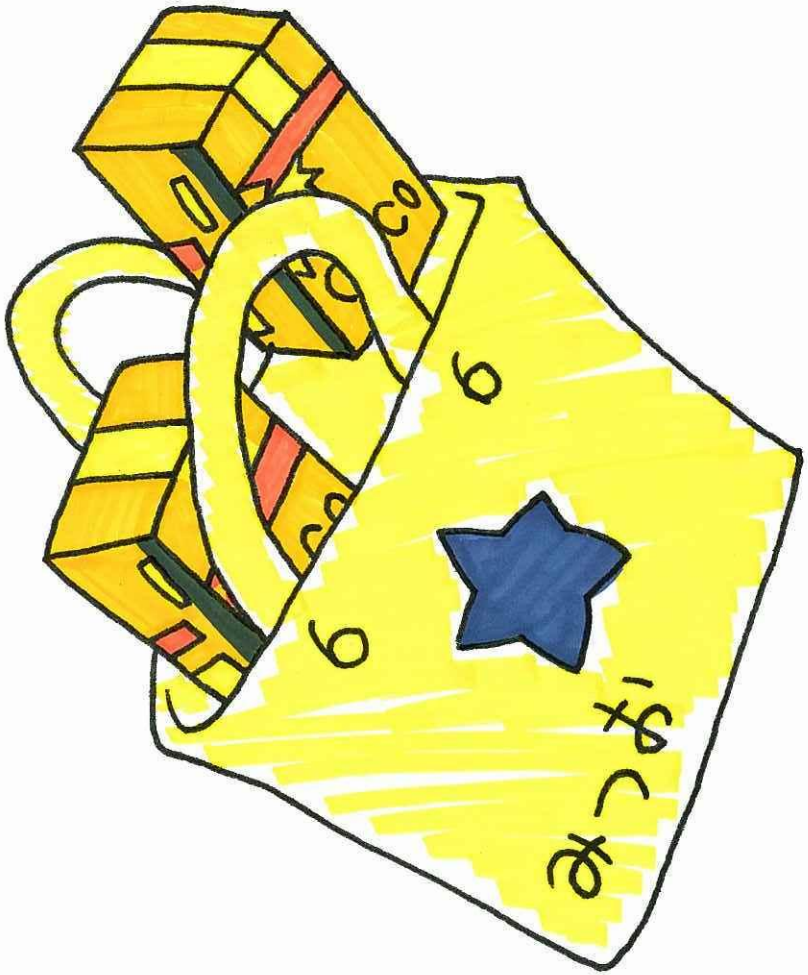
紙芝居色塗り台紙.qxd 08.2.28 9:05 ページ1

みつおくんのぼうけん

「ねぇ、おかあさん、絶対かってね」
　毎週、同じ時間に、いつものお店。ただ今日はめずらしくお父さんと一緒。みつおくんは近所のスーパーに買い物に行くのでありました。
　みつおくんには小学校にかようお兄ちゃんがいます。お兄ちゃんは学校から帰ってくるとみつおくんとカードゲームをしてくれます。でも、さすがにお兄ちゃんは強い。みつおくんは今日こそ、お兄ちゃんに勝ちたいものだと思っていました。
　そのためには、スーパーに行ってちょっとばかり新しいカードを手に入れておく必要があります。
　さあ、はじまりますよ。みつおくんの大ぼうけぇーん！

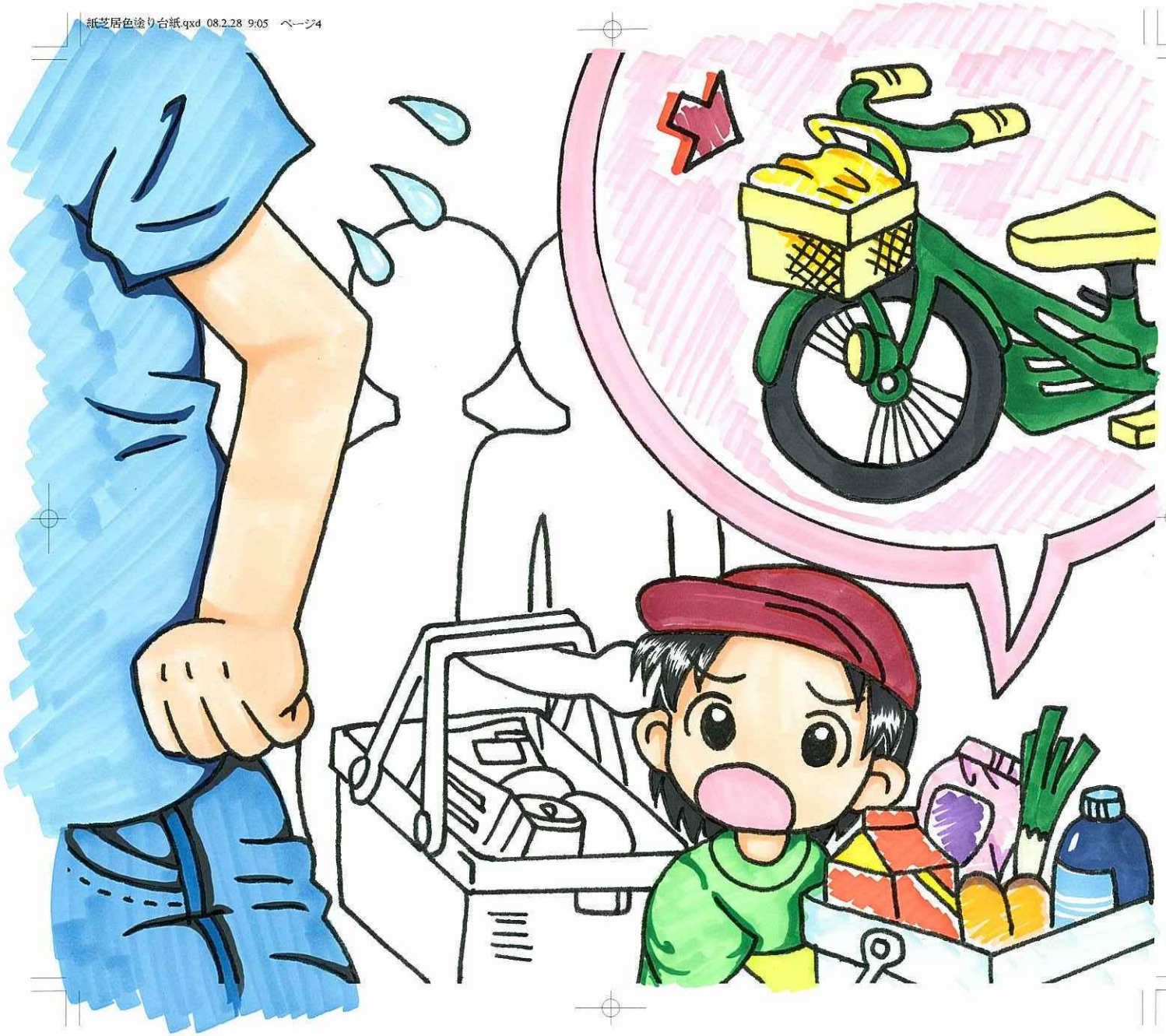

CHOCO

「チョコ・・・ふ、ふたついい？」
　みつおくんは思い切って切り出して見ました。おかあさんなら、言うか言わないうちに「だめっ。」だけど、今日は、みつおに甘いお父さんなのだ。案の定、
「いいけど。でも、お兄ちゃんの分もかっておけよ。」
　スーパーのお菓子売り場の前に行くと、みつおくんは迷ってしまいます。
「これかな？たしかこのあいだは、前からとったら弱いカードだったし、今日は・・・ここからだ！でもなぁ、おんなじところから取ると、お兄ちゃんも強くなるし・・・」
「あっちこっち、商品に手をつけたらだめだ。どれでもおなじだろう。」
「おとうさん、わかってないなぁ。どれを選ぶかが大事なんだよ。」
　みつおくんは手をふれないようにして、空中で指さしながら一生懸命考えました。レジには少し長い列ができていました。


みつば

「あっ、そうだ。うちにマイバックあったっけ？」
　やっぱり買い物のプロのお母さんとは違うや。バッグは最初っからもってこなきゃぁ。
　ちかごろは、自分の買い物袋やかごをもってきて買い物をするのは当たり前なのです。
「自転車のカゴにはいってるよ。」
　みつおくんは、買い物の素人のお父さんに、おしえてあげました。

紙芝居色塗り台紙.qxd 08.2.28 9:05 ページ4



「みつお、ちょっとまってな。すみません。
ちょっとバッグを取ってきますので、お先にどうぞ」
　お父さんはいそいで駐輪場の方へ駆けていってしました。
「すみません。さきにいっていいですか？」
　みつおくんのすぐ後ろにいた、大きなカラダのお客さんがみつおくんにいいました。
「・・・・は、はい。」
　みつおくんはカートを少し横にずらし、ちらっとその大きなカラダのお客さんを見ました。

HONEY

「あっ、くま！」
　みつおくんは急いで目を伏せました。
「たっ、たしかにクマだ。クマが買い物にきているぞ。」
　とても目を合わせるわけにはいけません。
「確かにクマかもしれないなぁ。カートにはハチミツがいっぱいはいっているし・・・」
「あら、あたしも先に行かせてもらっていいかしら。」
　今度は少し明るい声が、みつおくんの後ろから聞こえてきました。また、そちらの方向をみると・・・

油あげ

　今度は耳の後ろのところをかきかき、キツネが待っているではありませんか。
「すみません。５枚入れの小揚げといなりの缶詰、切れてましたけど。こんど仕入といてくださいな。」
　鼻の横をちょっと持ち上げるようにして、キツネは文句を言うようなそぶり。やっぱり、キツネはあぶらげをかうんだ。それをきいたレジの人は・・・レジの「人」じゃないっ！アライグマじゃん！
　そう言えば、さっきから店の中が少し暗くなったような気がします。じょ、じょうだんじゃないぞっ！みつおくんはこまってしまいました。お父さんはなかなか戻ってきません。

「すみません、品物はこのおなかの中に」
　こんどはカンガルーだっ。カンガルーはマイバックの代わりに自分のおなかの中に買ったものを入れてもらっています。みつおくんは列に並んでいる人たちをずうっと見てみました。「こりゃ大変だぁ」みつおくんは 口をぽかんと開けたまま身動き一つできませんでした。
　どういう訳か、このレジしか列がありません。外のレジには誰もいません。列の後ろには、エプロンを掛けたままのイノシシが、イノシシの子に「できるだけ詰め替えできるモノしなさい、ブヒブヒ」と言い聞かせているし、オラウータンはカートの上に腰掛けて「ヒトはどうして・・・」などとつぶやきながらじっと何かを考えている。その後ろには丹頂鶴がマイバックを首から提げ、長いネギをたくさん買っている。ワニはつまようじをかごに入れ、カバはどうもフライパンを買うようだ。アライグマは一つ一つ手で洗うようなしぐさで品物をこすりながらカゴに戻していきます。

紙芝居色塗り台紙.qxd 08.2.28 9:05 ページ9

　とうとう、長い列が終わってしまいました。お父さんはまだきません。レジのアライグマさんは「さあ、どうぞ。」というような目でみつおくんをみました。みつおくんはお金ももっていないし、アライグマと目を合わせないように横を向きます。するとアライグマはそっちの方向に動いていってみつおくんのかおをのぞきこみました。
「おきゃくさん。さあ、こっちにカゴを乗せてください。」
　アライグマはみつおくんのカートから品物も入ったカゴをよっこらしょと台の上にのせると、鼻をちょっと上向きかげんにみつおくんにききました。
「マイバックかマイカゴをおもちですか」
「いっ、いいえ、あっ、あのいまお父さんがとりにいっています。」
「ふんふんふん、カードをお持ちですか？」
　歌でも歌うようにアライグマはまたききました。
「カ、カード？あっ、はい」

　みつおくんはポケットに手を入れ、お兄ちゃんといつも遊んでいるゲームのカードをさしだしてしまいました。
「ほっほっほ、こりゃ、こりゃ、ほっほっほ」
　アライグマはカードをひっくり返したり、電気にかざしたり、はたまたなめてみたりして、

　しまいには「はりゃー」といってどこかににげていってしまいました。みつおくんはレジのところでアライグマさんがまたやってくるのを待っていました。

紙芝居色塗り台紙.qxd 08.2.28 9:05 ページ11

「なんだ、もう計算してもらってたのか」
　後ろからお父さんの声がしました。
「お父さん！」
「どうしたんだ、お金なかったろう。レジの人は？」
「レジの『ヒト』じゃなくて、レジの『アライグマ』はあっちの方に走っていったよ」
「アライグマだって？」
「うん、クマやカバやイノシシも買い物をしていったんだ」
　・・・でもまわりを見渡すと店の中がすっかり明るくなっているではありませんか。そして、ほかのレジにはまた、おきゃくさんの短い列ができています。」あれれれ？

「・・・ほう、で、みんなはちゃんとレジ袋を使わなかっただろう」
「うん。」
　お父さんはみつおくんの話にちっともおどろきません。
「マイバックを使ってたろう。」
「確かにマイバックには違いないけど・・・ぼくが見たのは・・・」
「おまたせしました。このお菓子は２１０円でした。」
　ほうらみろ、おとうさんレジのアライグマをみてびっくりするなよ・・・レジの・・・

PER
SUPER
みつお

　アライグマじゃないっ！みつおくんは何が何だかわからなくなってしまいました。
「ほら、これはみつお専用のバッグだ。カードチョコいれてもらった。さあ、帰ろう」
　お父さんはみつおくんのおしりをぽんとたたいて、出口の方へ歩き出しました。みつおくんは歩きながらじっとレジのお姉さんの方を見つめています。
「アライグマだったんだがなぁ。夢でもみてたのかなぁ。うん、夢だったんだ。」
　みつおくんはほっとしたような、でもなんだか残念だったようなそんな気持ちとなったのであります。さて、これで本日のみつおくんのぼうけんはここでおわるのでございます。

紙芝居色塗り台紙.qxd 08.2.28 9:05 ページ14

「つかまってろよ」
　自転車の後ろにのせられたみつおくん、お父さんにいわれて、腰に手を回し、ぴったりと顔をくっつけました。みつおくんの気持ちなんか考えずに「ようし、うちまで超特急だぁ」などとお父さんは自転車を走らせました。
「どうだ？強いカードは見つかったか？」
「う、うん」
　確かに、あれはアライグマをやっつけたんだから強いカードにはちがいないやっ！
　ふと、みつおくんは何か顔に毛のようなものがさわっているのに気がつきました。
「あれなんだ？しっぽのようだぞ」
　さわってみると、なんと本物のしっぽでした。
「たいへんだ。お父さんのおしりからしっぽがはえてる。」
「おい、手を離すなあぶないぞ！」
　お父さんは何も知らないんだろうか？

さあ、お父さんのしっぽを見つけてしまったみつおくん。いったいこの後どうなるのでしょうか「みつおくんのだいぼうけん」このつづきをごきたいください。